

業務点検セルフフォローアップの概要

2025年5月22日



本日のご説明内容

1. システム障害の対応について

2. 企業理念・経営方針

3. 安全性向上に向けた不断の取組について

4. 日本の大動脈を担う高速道路ネットワーク整備、機能強化について

- ・ ネットワーク整備の推進
 - ⇒ 民営化後10年以降で、5路線、199kmを供用し渋滞減少・リダンダンシーの発揮等の効果を発現
- ・ 4車線化・6車線化の推進
 - ⇒ 2019年3月の東海北陸道（白鳥IC～飛騨清見IC）の4車線化の完成により、事故件数や通行止め回数が大幅に減少し、安全性やネットワークの信頼性が向上した
- ・ 渋滞対策 付加車線の整備等
 - ⇒ 名神 一宮JCT付近（上り線）で現況幅員の中で車線を増やすことで、通常の車線拡幅に比べ短期間かつ低コストで3車線運用を実現させ、渋滞を約40%解消

5. 高速道路の維持管理について

- ・ 道路構造物の経年劣化対策（特定更新）の取組状況
 - ⇒ 渋滞・事故対策など社会的影響の最小化に取り組みながら、大規模なリニューアル工事を推進
- ・ 効率的な維持管理
 - ⇒ DXや機械化などの導入により、省力化やコスト縮減を行い、効率的な維持管理を実施
社会便益効果（通行止め時間の短縮等）が評価可能となったインセンティブ助成制度を積極的に活用
- ・ 災害対応・防災の取組
 - ⇒ 冬季の道路交通確保に向け予防通行止めを実施し、大規模滞留の発生を事前に防止
 - ⇒ 2024年1月の能登半島地震では自治体からの要請等に基づき被災地の生活を支援
- ・ i-MOVEMENTの取組状況
 - ⇒ 次世代技術を活用した革新的な高速道路保全マネジメントの実装を推進

本日のご説明内容

6. 広くお客さまに利用される高速道路空間への進化について

- ・ 高速道路における自動運転実現へ向けた取組
 - ⇒ 新東名において路車間協調実証実験の実施や自動運転レーンを整備
- ・ 物流効率化への取組
 - ⇒ 大型車駐車マスの拡充、短時間限定駐車マスや予約駐車マスなどの検証、中継輸送拠点「コネクトエリア 浜松」の運営

7. 社会課題解決・地域との協働に向けた取組について

- ・ 休日割引の見直し・周遊パスの実施
 - ⇒ 休日割引については、観光需要平準化や交通分散のため2023年度より順次適用除外日を設定
 - ⇒ 周遊パスについては、観光周遊の促進を目的として、自治体をはじめとする地域と連携し観光関連サービスとのセット商品の販売などの取組を実施
- ・ 地域との連携・活性化の取組
 - ⇒ 地方公共団体や地域企業等と連携して、道の駅等の管理やIC周辺開発など地域の活性化に寄与
- ・ 高速道路で培った技術を活用した取組
 - ⇒ 高速道路事業で培った技術やノウハウを活かし、高性能な技術サービスの提供により、地域社会を支援
- ・ 担い手の確保
 - ⇒ 発注者指定方式による週休2日適用工事を拡大、「工事円滑化ガイドライン」の制度化により、受発注者双方の働き方改革を推進
 - ⇒ 当社グループにおいても担い手確保のため、グループ社員のワーク・ライフ・バランスを推進し、多様な働き方を実現。合わせて、清掃の機械化やICTの高度活用による点検などDXの活用等により、省人化の取組を推進。

8. 国、機構との関係で特に提案したい事項

- ・ 近年の物価・労務費高騰・社会環境の変化（加速する構造物の老朽化、大雪対策等）に対する事業費確保策
- ・ 機能強化の取組
- ・ 社会的課題解決や高速道路の進化に向けた取組
- ・ 社会的要請に基づくお客様支援に資する施設整備に要する費用負担の在り方等

1. システム障害の対応について

1) 2025年4月 ETCシステム障害事象 概要

1. 事象概要

4月6日(日)の0時半頃から、NEXCO中日本管内の一部の料金所において、ETCのシステム障害が発生し、課金処理ができず、ETCレーンの通行が出来なくなった。その結果、渋滞が発生するなどの事態が発生。

4月7日(月)14時、応急復旧によりETC運用を再開(全車両通行可)。



E1東名(上り) 音羽蒲郡ICにおける渋滞の様子
<4/6 11:30>



E1A新東名 岡崎東IC料金所における
発進制御バー開放の状況
<4/6 14:00>

2. 当面の対策について

4月18日(木)に「広域的なETCシステム障害発生時の危機管理検討委員会」(以下、有識者委員会という)を設置。原因究明や当面の対策(案)について議論を行い、4月22日(火)に料金所におけるETCレーンの運用などの当面の対策をとりまとめた。

3. 料金に関する対応

- ・システム障害が発生した出口料金所では発進制御バーを開放したが、ETC通信を継続した料金所と切断した料金所が混在。
- ・当初は、後日支払いのお申し出を広くお願いしたが、その後、ETC通信を継続した料金所では正常に課金できた一方で、通信を切断した料金所では請求が困難であることが判明。
- ・混乱を招いたことや不公平感解消の観点から、障害が発生した料金所を通過された全てのお客さまに利用額と同額を還元することを5月2日に発表。
- ・お客さまを大切にするという視点を意識し、今後の対応を検討。

4. 今後のスケジュール

NEXCO東日本・西日本と連携し、有識者委員会にて議論を進め、6月中をめどに再発防止策と広域的なETCシステム障害への危機対応マニュアルの策定を行うべく検討を進めていく。

2. 企業理念・経営方針

当社グループは「笹子トンネル天井板崩落事故」を引き起こした当事者として、「二度とこのような事故を起こしてはならない」という深い反省と強い決意を胸に、**安全最優先の理念**を掲げ、**安全で安心快適な高速道路空間を提供する**とともに、**高速道路の進化と新たな価値創造**に挑戦します。

○企業理念・私たちの役割

私たちは、安全を何よりも優先し、安心・快適な高速道路空間を24時間365日お届けするとともに、高速道路ネットワークの効果を、次世代に繋がる新たな価値へ広げることにより、地域の活性化と暮らしの向上、日本の社会・経済の成長、世界の持続可能な発展に貢献し続けます。

○経営方針

2021年度から2025年度までの5力年の経営方針

1. 安全性向上に向けた不断の取組みの深化
2. 高速道路の機能強化と広くお客さまに利用される高速道路空間への進化
3. デジタル化や脱炭素化などの環境変化に適応した新たな価値創造への挑戦
4. お客さまをはじめとするステークホルダーの期待に応え続けるための経営基盤の強化

3. 安全性向上に向けた不断の取組について

2012年12月2日に引き起こした笹子トンネル天井板崩落事故を決して忘れず、お客さまに安全な高速道路空間を提供し続けることこそ、最大の使命であるとの強い決意のもと、安全性向上への「5つの取組み方針」に基づく不断の取組みを、PDCAサイクルを着実に実践しながら深化させています。

1. 安全を最優先とする企業文化の醸成

12月2日を「安全の日」とし、追悼慰霊式を執り行うとともに、全職場で黙とう、安全行動指針の唱和、安全に関する職場討議などを実施しています。



<追悼慰霊式>



<黙とう>



<安全に関する職場討議>

2. 安全活動の推進

安全推進活動では、現場組織やグループ会社を定期訪問し、安全に関する取組みの確認や階層別ヒアリング、受注者への安全講話を実施しています。ヒアリングでは、課題への助言や好事例を収集し、他組織へ共有・水平展開を行っています。



<本社からの情報提供>



<事務所幹部との意見交換>



<受注者への安全講話>

3. 安全を支える人財の育成

「安全啓発館」を整備し、グループ会社を含む全ての社員に対して「安全啓発研修」を実施しています。



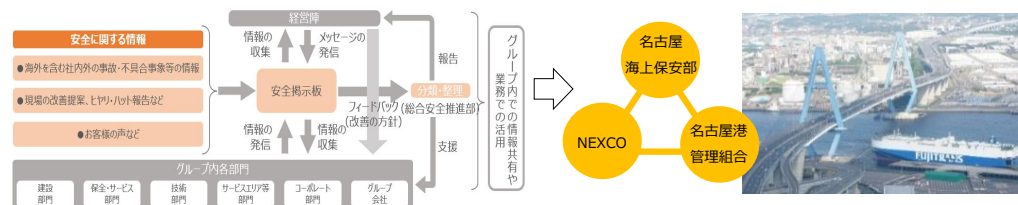
<安全啓発館>



<安全啓発研修>

4. 道路構造物等の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務プロセスの継続的改善

社内外の事故事象情報や安全掲示板による社員からの投稿など、安全に関する情報を幅広く収集し、社内外のインシデントを自らの業務に置き換え、対応しています。

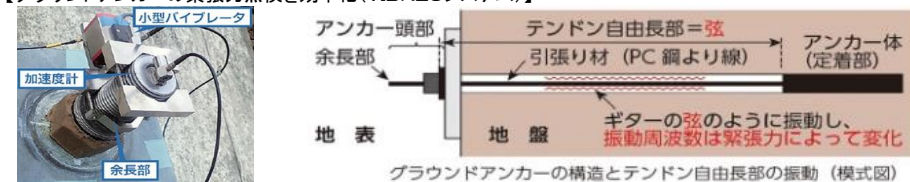


<「安全掲示板」を活用した情報の収集・共有のイメージと活用事例>
米ボルティモア港におけるコンテナ船の橋梁衝突事象を踏まえ、同様な事象の発生が懸念される伊勢湾岸道の名港トリトンで豊田HSCと海上保安部との連絡体制を構築

5. 安全性向上に向けた着実かつ効率的な事業の推進

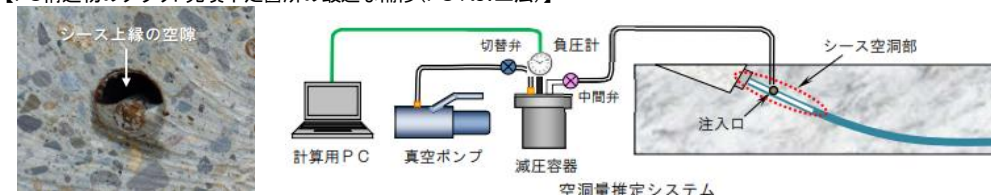
老朽化した道路構造物の維持管理を適切に行うため、高度な点検・補修技術を開発し、実用化することで事業を着実かつ効率的に進めています。また、これらの安全性向上への取組みは社長定例会見や現場公開などで積極的に発信しています。

【グラウンドアンカーの緊張力点検を効率化(VIBRESシステム)】



<小型装置を用いることで、従来は大型機材が必要だったグラウンドアンカーの緊張力点検を短時間で効率的に実施することが可能>

【PC構造物のグラウト充填不足箇所の最適な補修(PC-Rev工法)】



<橋梁におけるPCグラウトの再充填を目的として、安全で、確実かつ効率的にPCグラウトの再注入を行うことができる補修工法>

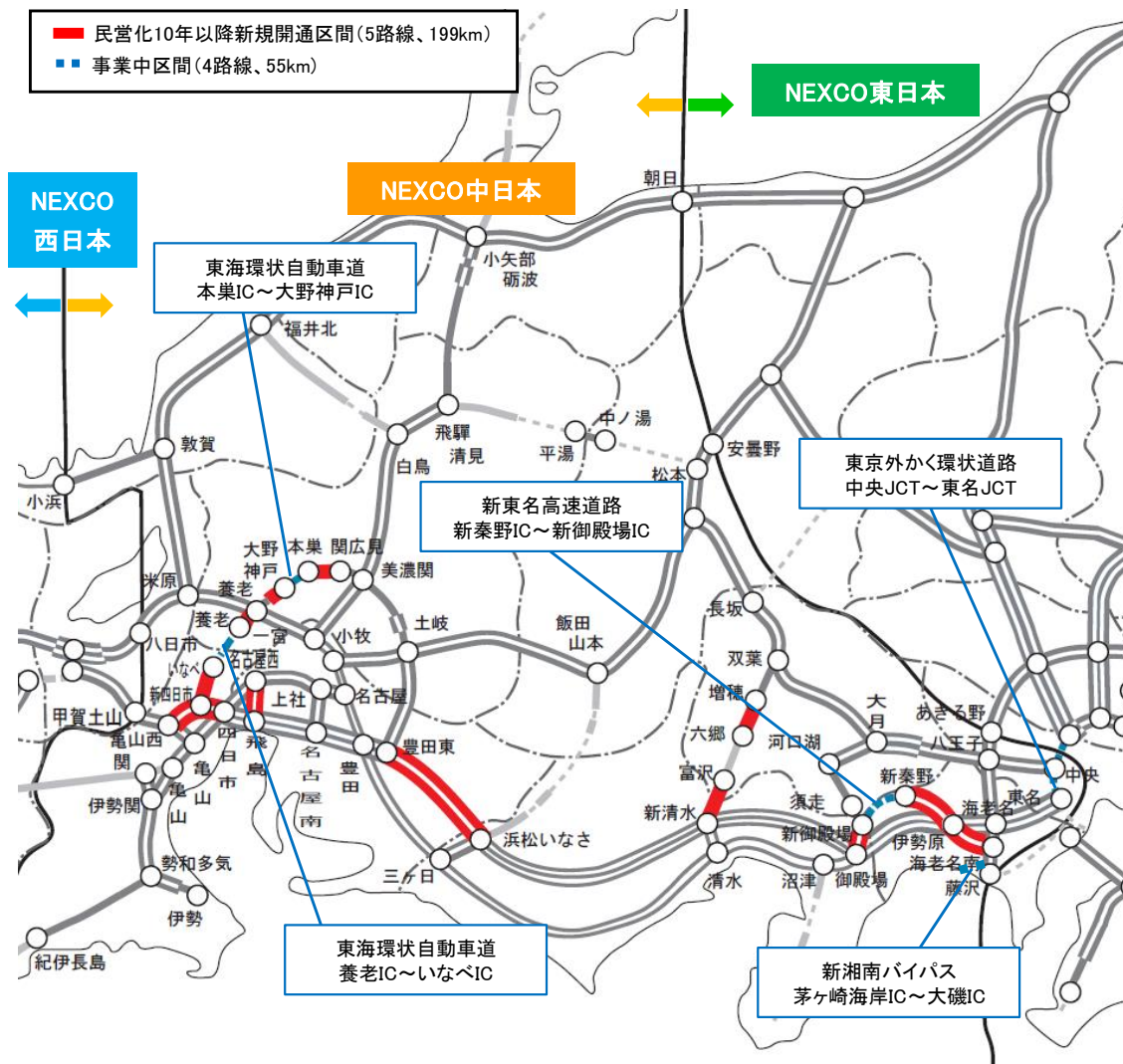
4. 日本の大動脈を担う

高速道路ネットワーク整備、機能強化について 1) ネットワーク整備の推進

- 民営化後10年以降で、5路線、199kmを供用
- 新名神や新東名の整備により渋滞減少・リダンダンシーの発揮等、ネットワーク強化を実現
- 引き続き、東京外環(中央J~東名J)、新東名(神奈川県区間)等の新規ネットワーク整備を進めていく

■2025年4月6日時点の供用路線

- 民営化10年以降新規開通区間(5路線、199km)
- 事業中区間(4路線、55km)



■新名神(新四日市JCT~亀山西JCT)の整備効果

○交通分散による渋滞の解消

東名阪道と新名神に**交通が分散**。東名阪道の渋滞が**約9割減少**



■新東名(浜松いなさJCT~豊田東JCT)の整備効果

○リダンダンシーの発揮

東名の通行止め時や集中工事、リニューアル工事実施時などには、**新東名への迂回が可能となることで東西交通を確保**

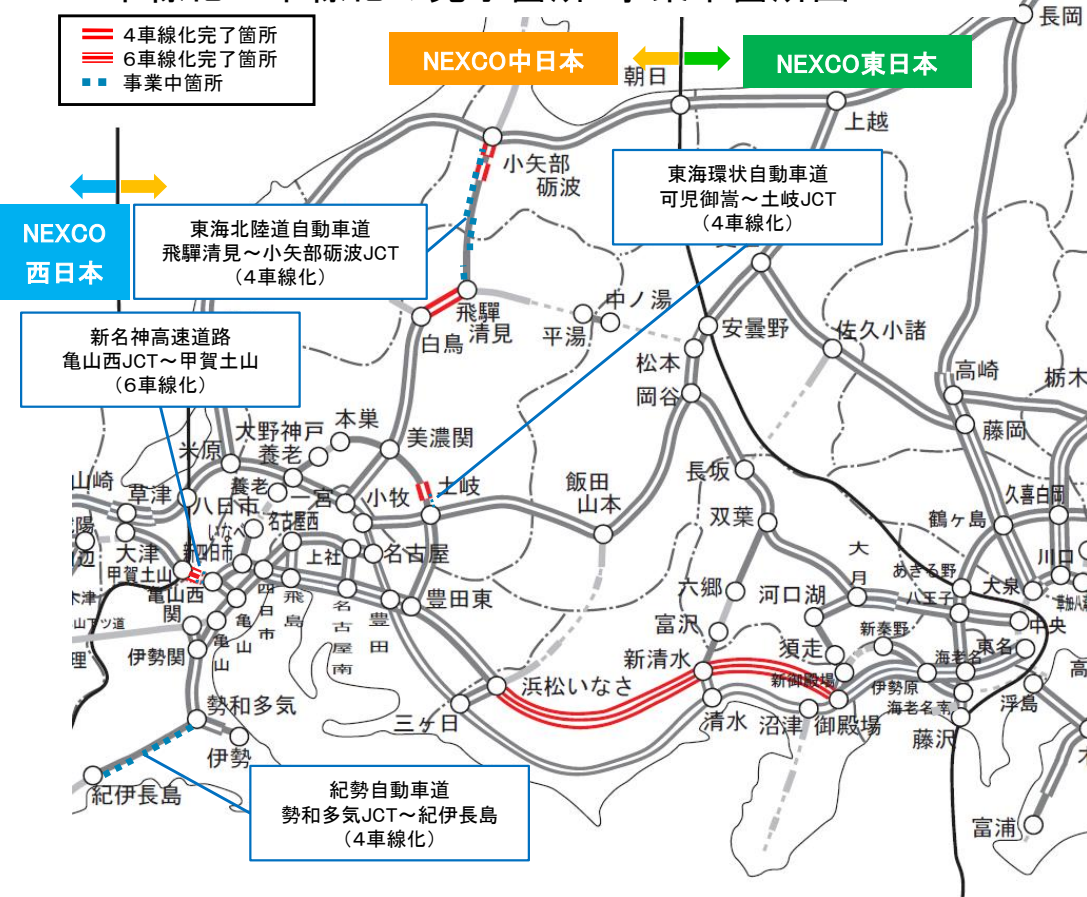


4. 日本の大動脈を担う

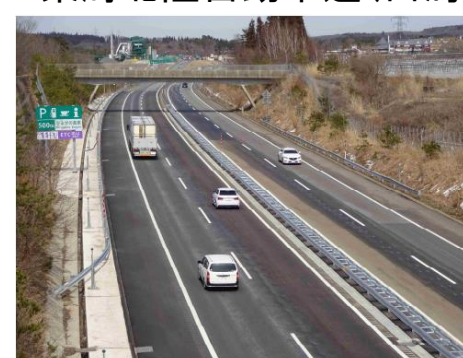
高速道路ネットワーク整備、機能強化について 2) 4車線化・6車線化の推進

- 物流の効率化による生産性向上や道路ネットワーク安定性の更なる向上にむけ暫定二車線区間の4車線化や新東名、新名神の6車線化を推進
- 2019年3月の東海北陸道(白鳥IC～飛驒清見IC)の4車線化の完成により、渋滞が概ね解消し、事故件数や通行止め回数が大幅に減少し、安全性やネットワークの信頼性が向上
- 現在、東海北陸道(飛驒清見IC～小矢部砺波IC)等で4車線化事業を、新名神(亀山西JCT～甲賀土山IC)で6車線化事業を実施中

■ 4車線化・6車線化の完了箇所+事業中箇所図



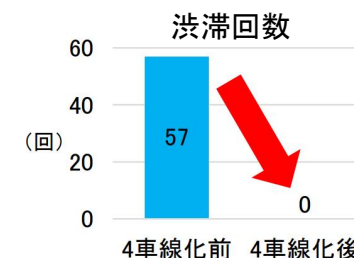
■ 東海北陸自動車道(白鳥IC～飛驒清見IC)の整備効果



ひるがの高原SA付近

【安全性・ネットワークの信頼性の向上】

4車線化の完成により、渋滞が概ね解消

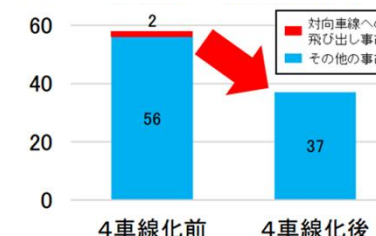


※交通集中による渋滞が対象
※荘川IC～飛驒清見IC間の災害区間の車線規制が関係する渋滞は除く

【安全性・ネットワークの信頼性の向上】

4車線化の完成により、4車線化前に比べて、事故件数や通行止め回数が大幅に減少し、安全性・ネットワークの信頼性が向上した

事故件数の変化
(件) (白鳥IC～飛驒清見IC)



通行止め回数の変化
(回) (白鳥IC～飛驒清見IC)



■集計期間
・4車線化前: 2018年3月23日～12月31日
・4車線化後: 2019年3月22日～12月31日
※「平成30年7月豪雨」で被災した復旧工事区間での事故・通行止めは除く

4. 日本の大動脈を担う

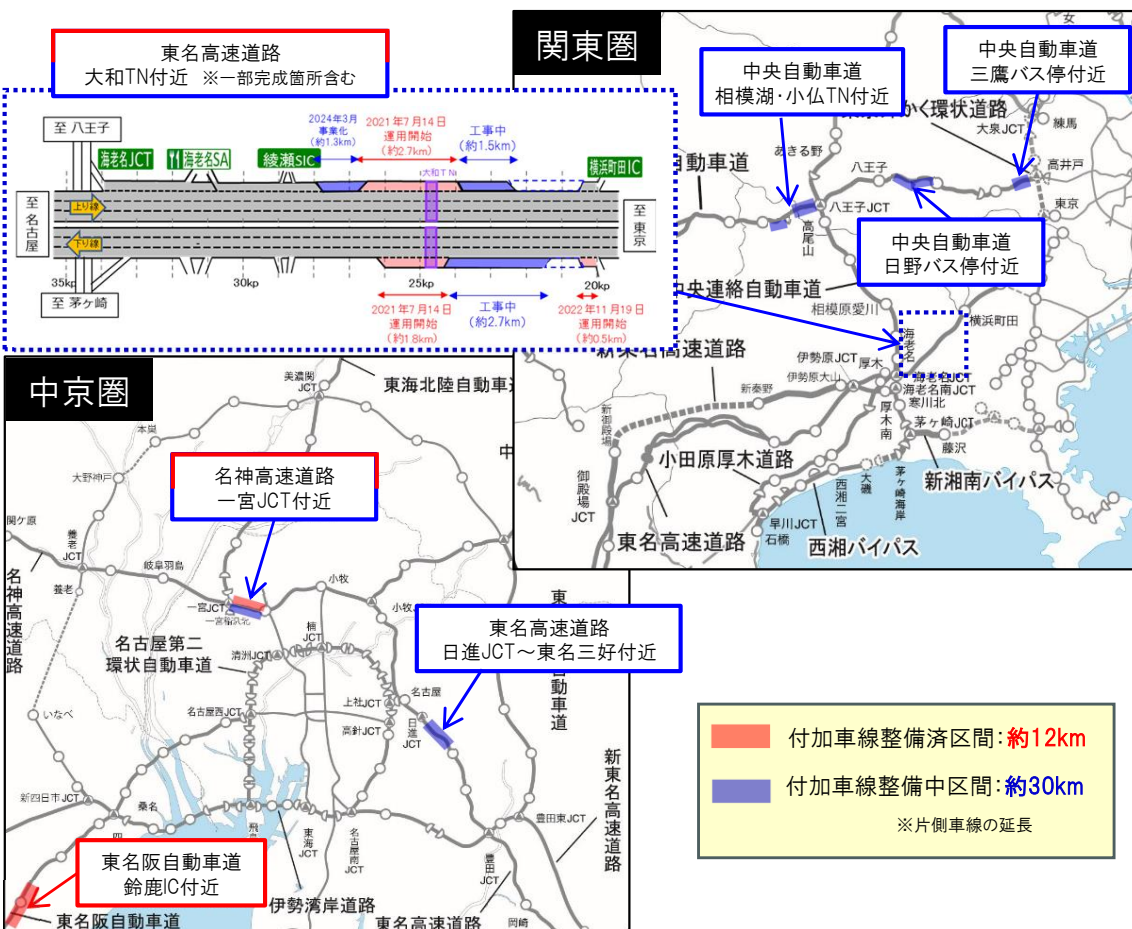
高速道路ネットワーク整備、機能強化について



3) 渋滞対策 付加車線の整備等

- 渋滞のボトルネックとなる箇所への付加車線の整備など、渋滞対策を推進
ex. 東名 大和TN付近、中央道 小仏TN付近、三鷹付近、名神 一宮JCT付近等
- 2024年9月に3車線運用を開始した一宮JCT付近(上り線)では、既存の幅員の中で車線を増やすことで、通常車線幅に比べ短期間かつ低コストで3車線運用を実現させ、渋滞を約40%削減
- 引き続き、ボトルネックの解消を推進

■ 渋滞対策の完成箇所+事業中箇所図



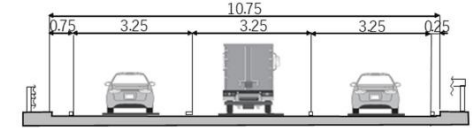
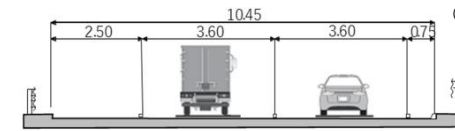
■ 名神(一宮JCT付近(上り線))の整備効果

既存の幅員内での3車線化とすることで橋梁幅を不要とし短期間かつ低コストでの3車線運用を実現

運用前



運用後



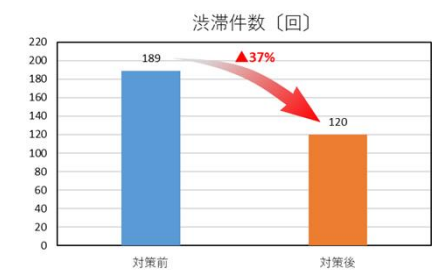
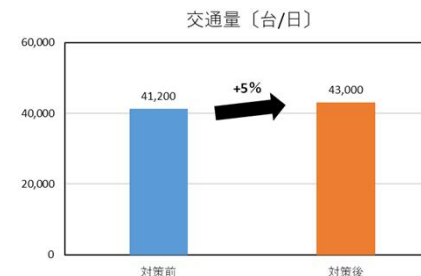
【上り線3車線運用開始後3か月の交通状況】

一宮JCT～一宮IC 間の上り線について昨年対比、

交通量 : 約5%増加 (41,200 台/日 ⇒ 43,000 台/日)

渋滞件数 : 約40%減少 (189 件 ⇒ 120 件)

■ 集計期間
対策前: 2023/9/12(火)から2023/12/10(日)
対策後: 2024/9/10(火)から2024/12/8(日)



5. 高速道路の維持管理について

1) 道路構造物の経年劣化対策(特定更新)の取組状況

- 特定更新事業については、2015年に事業許可を受けて以降、順次工事を進めており、2025年3月末現在、次表のとおり、工事契約を行っている状況
- リニューアル工事の実施にあたり、渋滞や事故などの社会的影響を最小限にする取組みや、3DCG技術を用いた作業手順の事前確認による作業の効率化、労働災害防止の取組みも実施

■ 特定更新事業の取組状況(2025.3末時点)

項目		単位	協定延長	契約済	契約率
橋梁更新	床版	km	106	57	53%
	桁	km	2	1	52%
橋梁修繕	床版	km	125	54	43%
	桁	km	58	33	56%
土構造物修繕		箇所	4977	368	7%
トンネル修繕		km	35	9	26%



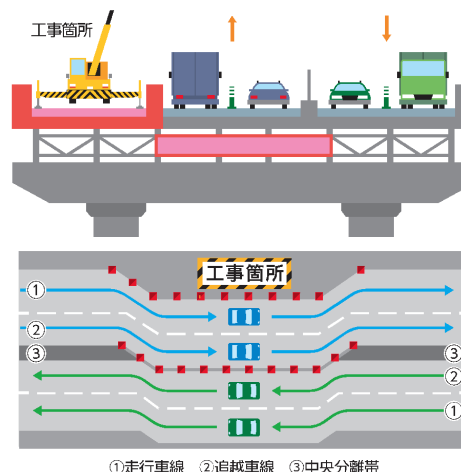
橋梁更新(床版取替)



トンネル修繕(炭素繊維補強)

■ 社会的影響を最小限にした取組み(渋滞や事故対策の実施)

【現況車線数を可能な限り確保】



① 走行車線 ② 追越車線 ③ 中央分離帯

【事故対策の実施】

工事箇所を通行いただく際の安全を確保



コンクリート製防護柵
による安全対策



対面通行規制時の
路面標示による安全対策

【環状道路ネットワークを活用した迂回路促進策】



2021.5に開通した名二環、伊勢湾岸道を
東名阪道リニューアルの迂回路として確保

■ DXを活用した効率的な施工計画の立案



生産性向上を目的とした施工シミュレータ

・3DCG技術を用いた工事作業手順を事前確認
することで作業の効率化、労働災害防止に貢献

5. 高速道路の維持管理について

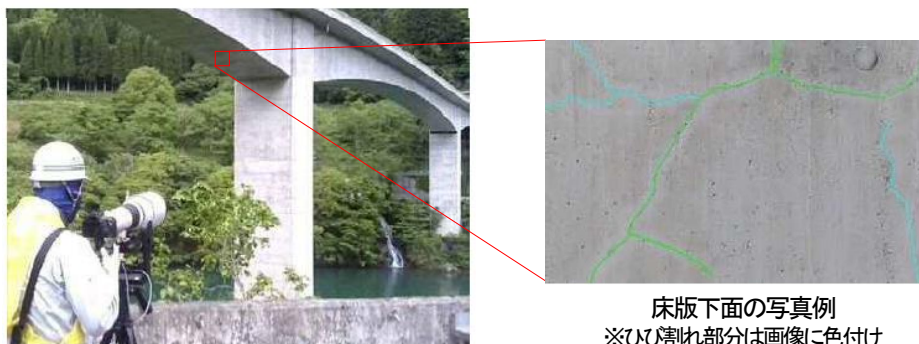
2) 効率的な維持管理

- DXや機械化などの推進により、省力化やコスト縮減を行い、効率的な維持管理を実施
- インセンティブ助成金については、建設事業に加え、2018年度以降、修繕や特定更新事業も継続して認定を受けている。また、2024年1月から通行止め時間の短縮等による社会的便益も評価できるよう算定方法が見直され、当該制度を活用し、2024年度に認定を受けている。

■DXや機械化などの推進による省力化やコスト縮減

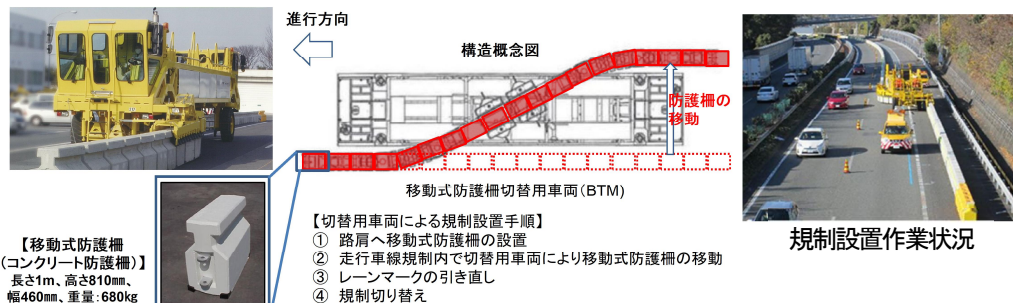
○高解像度カメラを使用した点検による省力化・コスト縮減

- ・直接の目視点検に必要な仮設足場など仮設物の設置に必要な期間の省力化やコスト縮減が可能



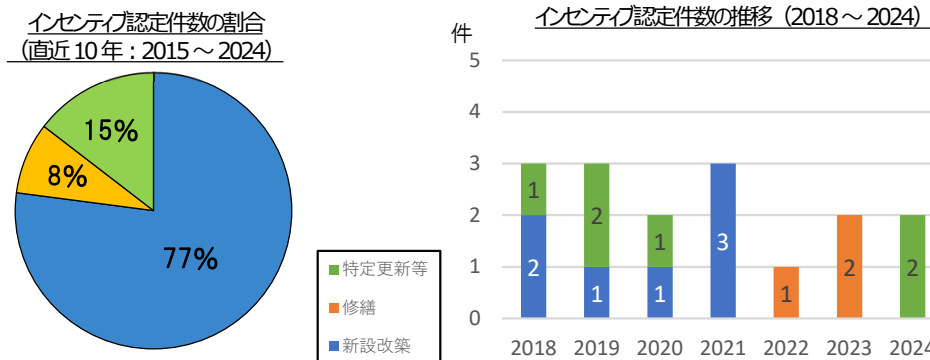
○移動式防護柵(ロードジッパー)採用による渋滞対策費の縮減

- ・工事に伴う対面通行規制の規制期間の縮減および規制費・広報費のコスト縮減
さらに、対面通行規制の規制作業の効率化、安全面向上にも寄与



■インセンティブ助成認定状況

- ・新設改築の認定件数は、事業の完了により減少しているが、修繕、特定更新等については、2018年度以降継続して認定



■インセンティブの認定事例(2024年度に社会的便益の初の認定)

- 昼夜連続・通行止めでの集中工事の実施による規制日数の削減
(名古屋第二環状自動車道 清洲西IC~名古屋西JCT)

社会的影響や施工時の安全面を低減するため、交通検討会※を開催して検討し、また、各行政、警察、地元関係者とも綿密に協議を行った上で、昼夜連続・通行止めによる集中工事を初導入し、規制日数の縮減、渋滞量の減少による社会的影響の抑制を実現。



5. 高速道路の維持管理について

3) 災害対応・防災の取組

- 冬期の道路交通確保にむけ「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避すること」を基本方針として対応。予防的通行止めを実施し大規模滞留の発生を事前に防止
- 地域防災計画と連携した防災機能強化の一環で、休憩施設をDMAT等の進出拠点として活用
- 2024年1月の能登半島地震では自治体からの要請等に基づき被災地の生活を支援

■ 予防的通行止めの導入による新たな取組や工夫

【除雪方法の見直し、体制の強化】



集中除雪の実施
(R7.3.8 東名 御殿場IC付近)



救援車両の事前配置強化
(スタック車両の牽引状況)

【情報提供】

●/● 名神 通行止の可能性あり！
走行ルートと計画変更の検討を！

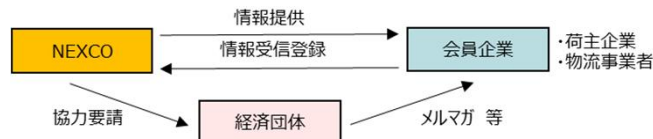
情報版による情報提供(イメージ)



みちラジによる情報提供

荷主企業に対する広報強化

・経済団体等へ協力要請を行い、直接、荷主企業へ情報を提供



出控え広報
(企業CMの緊急差替)

■ 休憩施設における防災訓練の状況



DMAT参集状況

2024年度大規模地震時医療活動訓練
足柄SA(上り線)での訓練実施状況



休憩施設ヘリポートの使用状況

安濃SAにおける航空受援訓練【2024年度】

■ 能登半島地震での被災地支援状況



北陸道有磯海SA(下り線)
お客さま、地域住民の方への食事の無償提供

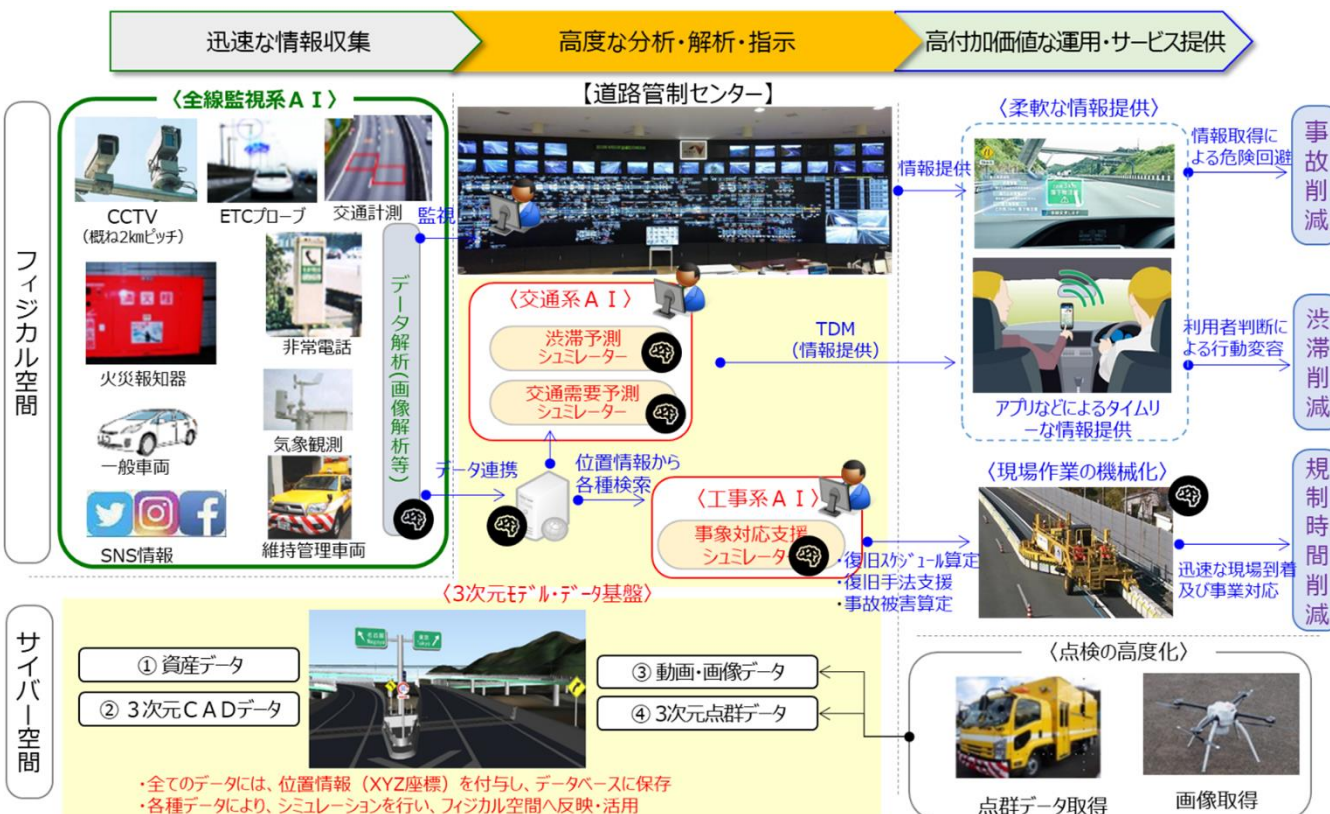


トイレカーの派遣
(中能登町 ラピア鹿島)

5. 高速道路の維持管理について

- 保全・サービス事業におけるDXプロジェクト「i-MOVEMENTプロジェクト」に取り組んでいる。
- 社会環境の劇的な変化に対応するため、最先端のデジタルテクノロジーを積極的に取り入れ、作業の迅速化・省力化を実現するなど生産性を向上させ、事業運営のあり方の変革を目指す。
- i-MOVEMENTの実現に向けて、グループ内での技術開発に加え、幅広い分野の企業や大学等との連携したイノベーション交流会(コンソーシアム方式)を組織し、新しい技術開発方式を導入

【i-MOVEMENTプロジェクトの概要】



【i-MOVEMENT 事例】

○点検の高度化



○道路管制センターの高度化



【イノベーション交流会】

- ・当社が抱える業務課題(ニーズ)と会員が保有する先端技術(シーズ)を組み合わせ、新たな手法の創出や新しい技術の実用化を推進
- ・会員数: 137企業・団体(2025年3月時点)

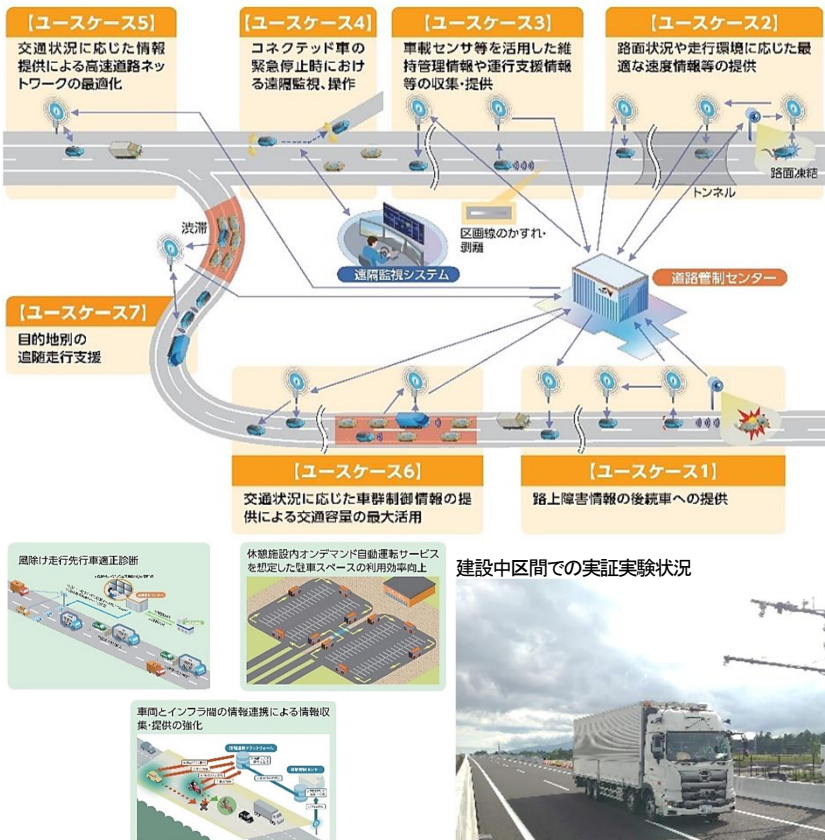


6. 広くお客さまに利用される 高速道路空間への進化について

1) 高速道路における自動運転実現 へ向けた取組

- 2021年2月に新東名の遠州森町 PA～浜松 SAでトラックの後続車無人隊列走行の実証実験が行われ、高速道路での社会実装に向けた取組みが加速。
- 2024年5月13日～7月26日の間、新東名 建設中区間(新秦野IC～新御殿場IC)で参加企業10団体と路車協調実証実験を実施。先読み情報など自動運転支援の有効性を確認すると共に成果は供用中区間の実証に活用。
- 2025年3月3日からは、供用中の新東名(駿河湾沼津SA～浜松SA)に自動運転車優先レーンを整備し、国や参加企業と検証を推進。

【新東名 建設中区間での実証実験】



【新東名 供用中区間での実証実験】

高速道路の自動運転サービスに求められるインフラ支援



6. 広くお客さまに利用される 高速道路空間への進化について

2) 物流効率化への取組

- 大型車駐車マスの混雑解消のため、当社管内で10年間(2015年度～2024年度)で約2,000台を拡充。拡充後も依然として駐車需要は多く、短時間限定駐車マス(回転率の向上)やダブル連結トラック等を対象とした予約駐車マス(確実な駐車)なども検証中
- トラックドライバーの労働環境改善及び働き方改革の支援を目的に、2018年9月に新東名の浜松SA(下り線)隣接地に中継輸送拠点「コネクティア浜松」の運営を開始。2025年6月には新たに2箇所を開業予定

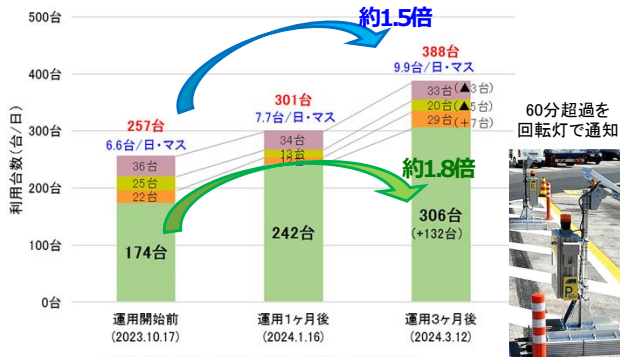
【駐車マス拡充(事例)】

【予約駐車マス(事例)】

【コネクティア浜松】



【短時間限定駐車マス(事例)】



運用前後の利用状況(回転率)の推移



足柄SA(上り)

■ 現拠点と新拠点(位置図)



7. 社会課題解決・地域との協働に向けた取組について

1) 休日割引の見直し・周遊パスの実施

- 休日割引については、観光需要平準化や交通分散のため、2023年度より繁忙期について適用除外としてきたほか、2024年度からはSWを、2025年度からは3連休について適用を除外することとした
- 観光周遊の促進を目的とした周遊パスについては、自治体をはじめとする地域と連携し、観光関連サービスとのセット商品を販売する取組みなどにより販売件数を伸長
- 休日割引について、休日と平日のバランスの見直しを引き続き検討していくと共に、周遊パスについては、一層の利用拡大を図るため、商品造成を拡充していく

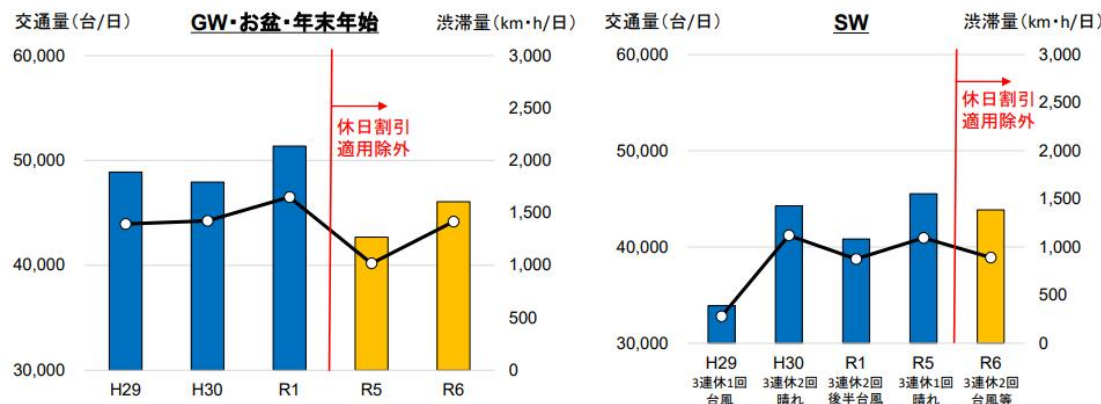
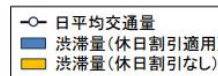
休日割引

○ GW・お盆・年末年始においては、休日割引適用除外による渋滞量の減少傾向がみられる。

○ SWにおいては、適用除外後に渋滞量が微減。

＜休日割引適用除外前後における渋滞状況の比較（H29、H30、R1、R5、R6※）＞

※新型コロナウイルスによる影響を踏まえ、R2～R4は比較対象外とした



○ 交通量はNEXCO3社管内の代表37断面を集計
○ 渋滞量はNEXCO3社管内で発生した交通集中を要因とする渋滞を対象に集計
○ 集計対象日は以下のとおり
(GW) H29.4.28-5.7、H30.4.27-5.6、H31.4.26-R1.5.6、R5.4.28-5.7、R6.4.26-5.6 (年末年始) H29.12.28-H30.1.4、H30.12.28-H31.1.6、R1.12.27-R2.1.5、R5.12.28-R6.1.4
(お盆) H29.8.5-16、H30.8.8-19、R1.8.8-18、R5.8.9-16、R6.8.10-20 (SW) H29.9.16-9.18、H30.9.15-17、H30.9.22-24、R1.9.14-16、R1.9.21-23、R5.9.16-18、R6.9.14-16、R6.9.21-23

周遊パス

○ NEXCO中日本独自の商品として、沿線の観光施設様・商業施設様と提携し、高速道路周遊パスと観光消費をセットにしたプランを販売

高速道路周遊パス

高速道路が定額料金で周遊エリア内が乗り放題！



観光施設利用

(お買物券・入園券)

【観光施設セットドライブプラン 例】



【三重】伊勢志摩スカイライン通行券付きプラン
通行券と沿線施設で利用できるお買物券のセット



【長野】伊那谷ドライブクーポン付きプラン
上伊那地区で利用できるドライブクーポンのセット



【富山】高岡めぐりお買物券付きプラン
高岡エリアで利用できるお買物券のセット

周遊パス利用台数推移（中日本のみ）



7. 社会課題解決・地域との協働に向けた取組について

2) 地域との連携・活性化の取組

- 地方公共団体や地域企業等と連携して、道の駅等の管理やIC周辺開発、地域連携事業(冊子媒体の作成や高速道路内外のイベントなど)に取り組み、地域の活性化に寄与。

【道の駅等の管理】

- ・道の駅「越前おおの 荒島の郷」(福井県)や「オアシスパーク」(岐阜県)の管理を当社グループで実施



道の駅越前おおの 荒島の郷<<福井県>>



オアシスパーク<<岐阜県>>

【IC周辺開発】

- ・地域密着のIC周辺開発として、東海環状道 土岐南多治見ICの隣接地で複合商業施設「テラスゲート土岐」を運営



【地域連携事業】

○北陸ジェネレーション

- ・北陸の産業の活性化に焦点を当て、物流、交流の発展や“定住人口”の維持に貢献していくプロジェクトで冊子などを発行



▲北陸地方の各産業で活躍する人々などに焦点を当て、北陸地方の次世代を担う『北陸ジェネレーター』をインタビュー形式で紹介



▲「日本地域情報コンテンツ大賞2023」
地方創生部門 優秀賞を受賞

○アノマルシェ(伊勢道 安濃SA)

- ・安濃SA園地部(安濃SAの森)を活用して、地域の皆さまと交流し、地域活性化を図るとともに安濃SAの森の認知度を向上



▲三重県警察音楽隊による演奏



▲みちまるくんとおの記念撮影

7. 社会課題解決・地域との協働に向けた取組について

3) 高速道路で培った技術を活用した取組

- 高速道路事業で培った技術やノウハウを活かし、安全性や生産性向上に資する技術サービスや技術製品の提供を通じ、地域社会を支援。

【自治体等の道路維持管理業務の受注】

○グループ会社が受注した業務（事例）

- ・東京都港湾局が管理するトンネルや橋梁の設備の運転監視や交通監視、保守点検、巡回点検を実施。



対象のトンネル・橋梁



運転監視業務

- ・沿線自治体が管理する高速道路上の跨道橋の点検等を実施。



跨道橋の点検

【安全に貢献する製品の開発・販売】

○グループ会社が開発した製品（事例）

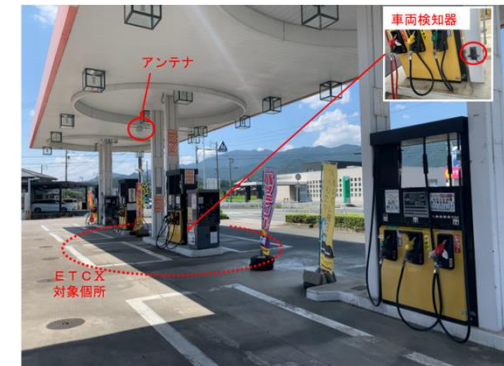
- ・高所作業車を使った点検及び工事における構造物との接触や挟まれ事故などの危険を知らせるセンサーを開発・製品化。



【ETC多目的利用サービスの拡大】

- ・ETCX※事業者のETCソリューションズ株式会社と業務提携し、これまでガソリンスタンドなどにおいてサービスを展開。

※：ETCを利用した新しいキャッシュレス決済サービス



ガソリンスタンドにおける導入例

【国際社会への貢献】

- ・現地技術者の能力向上を支援するコンサルティングサービスのほか、各国に道路分野の専門家として社員を派遣するなど国際社会に貢献。



タジキスタン国におけるコンサルタント業務にて現地技術者の育成を支援

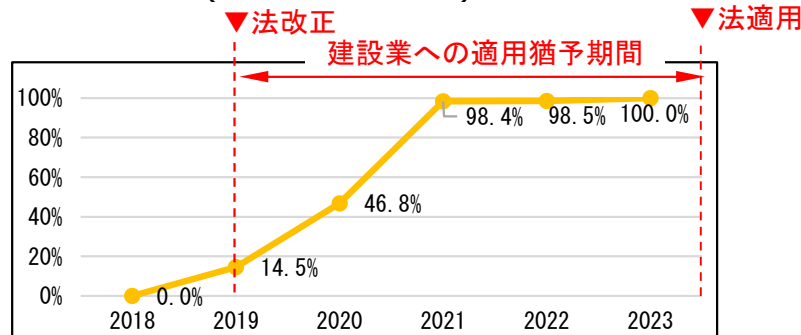
7. 社会課題解決・地域との協働に向けた取組について

4) 担い手の確保

- 少子高齢化により労働力が減少する中で、担い手の確保が課題
- 2019年度より発注者指定方式によるモデル工事を発注して、週休2日適用工事を順次拡大し、2023年度には全ての発注工事（災害復旧除く）に適用。また、2024年3月には週休2日および時間外労働の短縮等に配慮した適切な工期設定に資する「工事円滑化ガイドライン」を制度化
- 当社グループにおいても担い手確保のため、グループ社員のワーク・ライフ・バランスを推進し、多様な働き方を実現。合わせて、清掃の機械化やICTの高度活用による点検などDXの活用等により、省人化の取組を推進。

■ 建設業における担い手確保

【週休2日工事の実施率(発注者指定方式)】



※ 週休2日とは、工事期間を通して、4週8休以上（対象期間の全日数に対する現場閉所の割合が28.5%以上）の現場閉所（巡回パトロール等を除き現場及び現場事務所が閉所された状態）を実施すること。

【工事円滑化ガイドライン】

受発注者双方の働き方改革の推進を目的に制定

工事円滑化ガイドライン

令和6年3月
中日本高速道路株式会社

【制定内容】

- 設計図書の品質向上
- 適正な工期の設定
- 書類作成の軽減
- 施工管理の効率化・省力化

■ 社員のワーク・ライフ・バランスを推進

【勤務エリア特定等級】

社員一人ひとりが働き方を選択できる制度を創設

名称	概要	創設年月 (施行年月)	利用社員数
勤務エリア 特定等級 (居住地)	ライフイベント(結婚、子の養育、家族の介護)を条件に転居を伴う転勤を行わない制度	2021年7月 (2022年7月)	39名
勤務エリア 特定等級 (地域)	社員が選択した、支社の所在地を含む隣接3都県内で転勤する制度	2025年4月 (2026年4月)	— (2026年4月入社 新卒社員も利用可能)

■ DXの活用による省人化に向けた取組

【清掃の機械化】



床清掃ロボット

トイレ内清掃ロボット

【ICTの高度活用による点検】



トンネル覆工コンクリートのひび割れの
進行状況を把握

8. 国、機構との関係で特に提案したい事項

今後当社が地域の活性化や日本の社会・経済にこれまで以上に貢献するとともに、お客さまに安全で安心・快適に高速道路をご利用していただくために必要と考える会社からの提案事項は以下のとおり。

1) 近年の物価・労務費高騰・社会環境の変化(加速する構造物の老朽化、大雪対策等)に対する事業費確保策

○ DXの導入・機械化などにより、省力化やコスト縮減に取り組んでいるものの、労務単価や材料費は高い水準で増加傾向であり、加速する構造物の老朽化、大雪対策等の社会環境の変化、社会要請への対応も必要であることから、財源確保の検討が必要

2) 機能強化の取組

○ 渋滞の緩和・解消を目的として、ビッグデータを活用したピンポイント渋滞対策や暫定2車線の4車線化、その他の更なるネットワーク強化について、債務の返済状況を勘案しつつ、お客さまの安全の確保、また利便性向上の観点から、引き続き、関係機関との緊密な調整により対応が必要

3) 社会的課題解決や高速道路の進化に向けた取組

○ カーボンニュートラルの実現などの社会的課題解決に向けた施策や自動運転など高速道路の進化に向けた取組を推進するため、財源確保のほか関係機関と協働して効率的に進めることが必要

4) 社会的要請に基づくお客様支援に資する施設整備に要する費用負担の在り方等

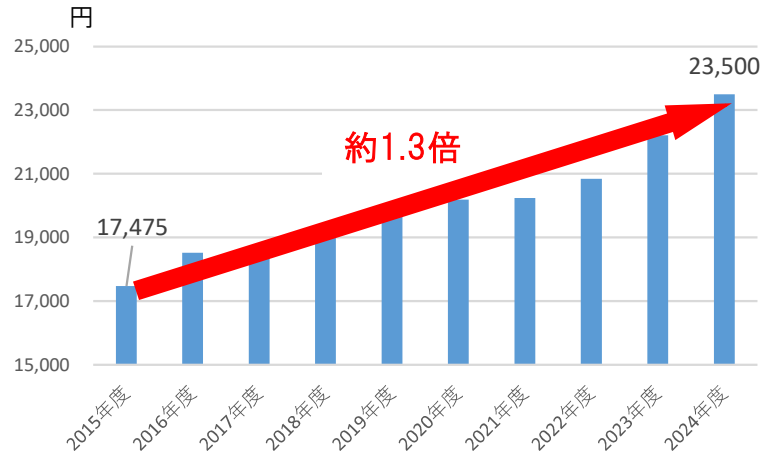
○ お客様の利便性向上に資するサービス施設や自動運転社会を見据えた発着拠点、高速道路と地域交通との交通結節点の整備について、関係機関と協働することでより効率的に推進できるよう費用負担の在り方等について検討が必要

8. 国、機構との関係で特に提案したい事項

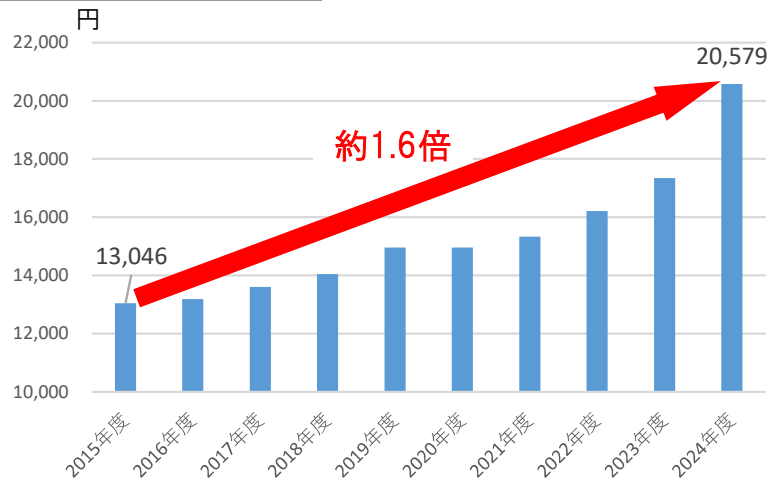
1) 近年の物価・労務費高騰・社会環境の変化(加速する構造物の老朽化、大雪対策等)に対する事業費確保策
 ODXの導入・機械化などにより、省力化やコスト縮減に取り組んでいるものの、労務単価や材料費は高い水準で増加傾向であり、加速する構造物の老朽化、大雪対策等の社会環境の変化、社会要請への対応も必要であることから、財源確保の検討が必要

■ 労務単価や材料費の推移

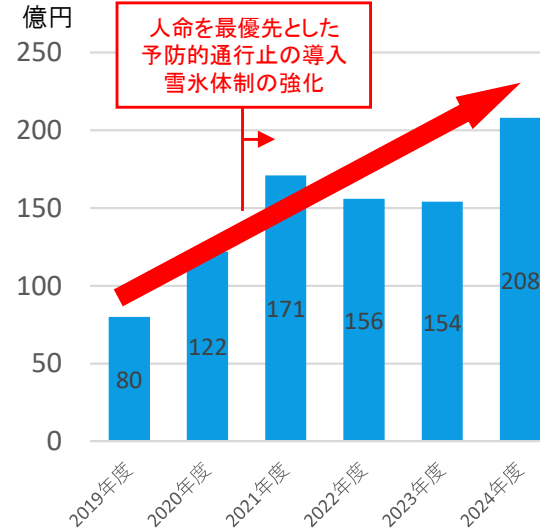
○ 普通作業員(労務単価)



○ 生コンクリート(材料費)



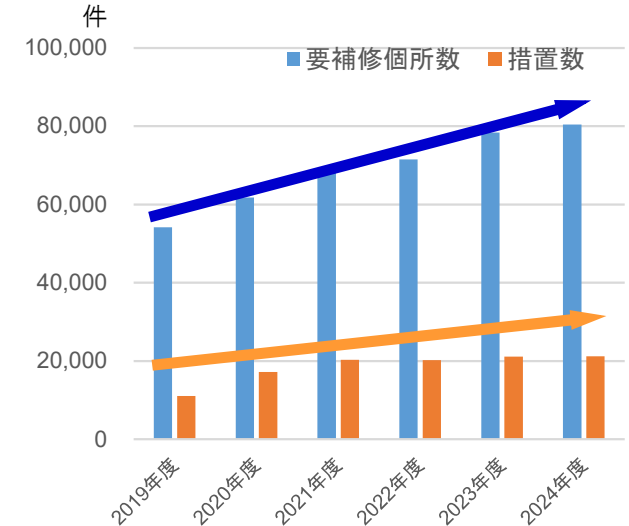
■ 雪氷対策費の推移



■ 大雪対応の増加



■ 老朽化に伴う要補修箇所数の推移(A1以上)



■ 要補修箇所(例)

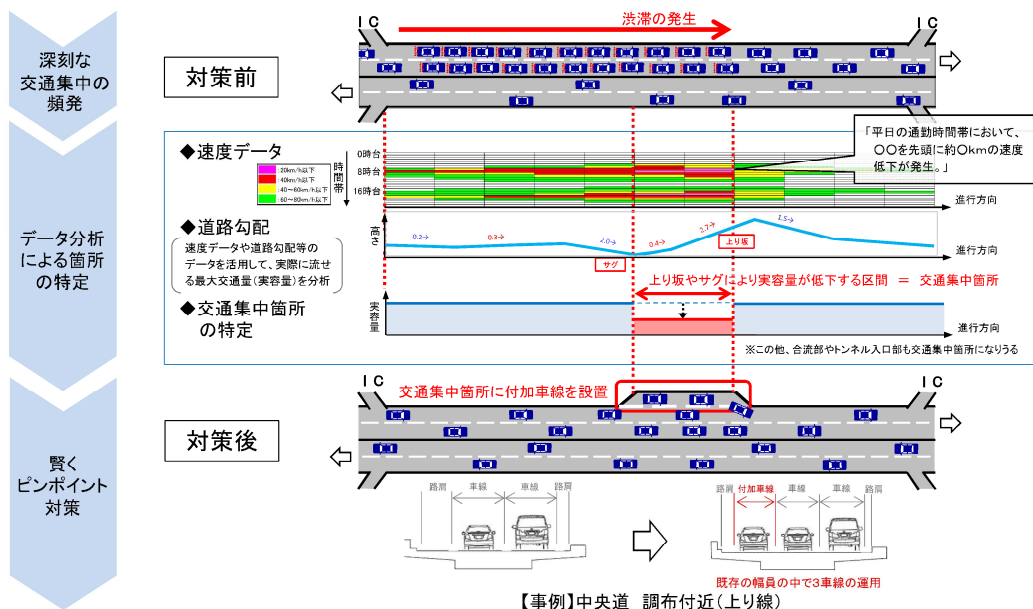


8. 国、機構との関係で特に提案したい事項

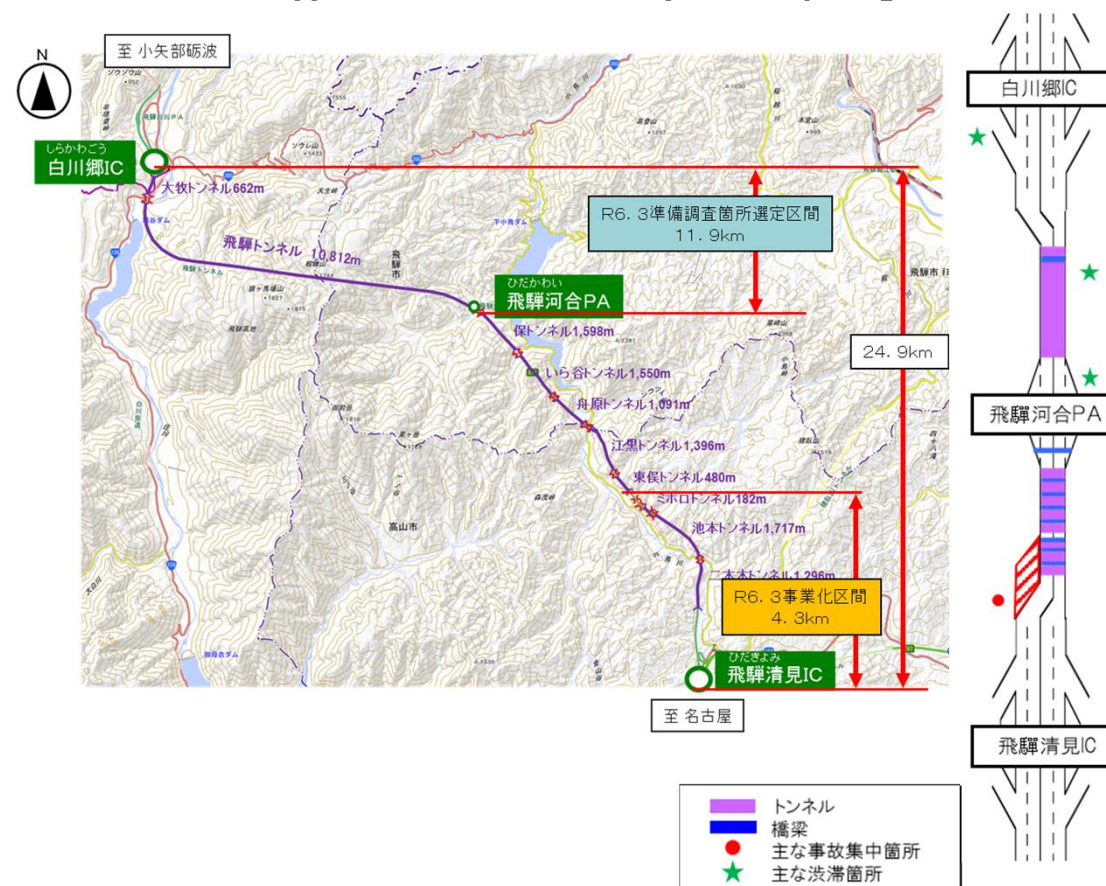
2)機能強化の取組

○渋滞の緩和・解消を目的として、ビッグデータ を活用したピンポイント渋滞対策や暫定2車線の4車線化、その他の更なるネットワーク強化について、債務の返済状況を勘案しつつ、お客さまの安全の確保、また利便性向上の観点から、引き続き、関係機関との緊密な調整により対応が必要

【ピンポイント渋滞対策（イメージ）】



【東海北陸道 飛騨清見IC～白川郷IC間 4車線化】



(平成27年12月25日 第20回国土幹線道路部会資料 抜粋)

8. 国、機構との関係で特に提案したい事項

3) 社会的課題解決や高速道路の進化に向けた取組

○カーボンニュートラルの実現などの社会的課題解決に向けた施策や自動運転など高速道路の進化に向けた取組を推進するため、財源確保のほか関係機関と協働して効率的に進めることが必要

【カーボンニュートラルの実現に向けた取組】

■オフィス活動に加え、中日本グループの事業活動(高速道路事業、関連事業も含む)においても、カーボンニュートラルの実現に向けて、太陽光発電の導入、新築建築物のZEB化、電動車の導入、再生可能エネルギー電力の調達、LED照明の導入などに取り組んでいる。



LED照明(トンネル)



太陽光発電(名二環)



環境配慮型コンクリートによる
橋梁防護柵の施工(北陸道)



太陽光発電(事務所)

【高速道路の進化に向けた取組】

■自動運転への取組(再掲)

【新東名 供用中区間での実証実験】



■物流効率化への取組(再掲)

【予約駐車マス(事例)】



静岡SA(上り)
(ダブル連結車両専用予約駐車場)

【短時間限定駐車マス(事例)】

足柄SA(上り)



駐車時間を表示するモニター
(足柄SA上り線)

駐車時間の表示内容

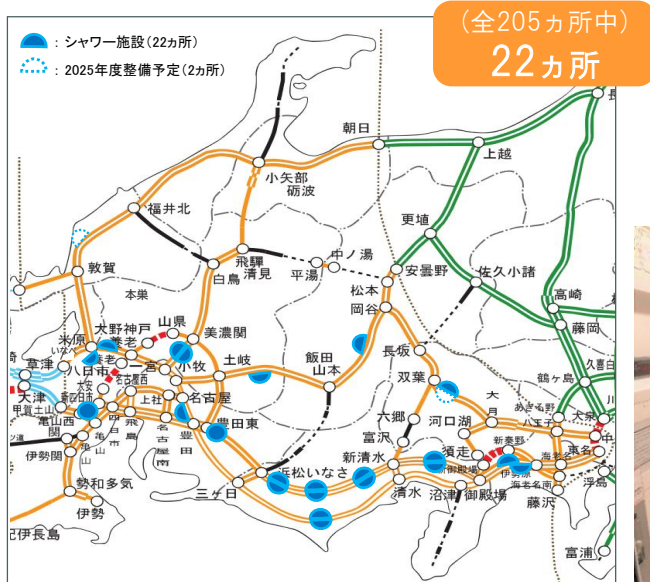
8. 国、機構との関係で特に提案したい事項

4) 社会的要請に基づくお客様支援に資する施設整備に要する費用負担の在り方等

○お客様の利便性向上に資するサービス施設や自動運転社会を見据えた発着拠点、高速道路と地域交通との交通結節点の整備について、関係機関と協働することでより効率的に推進できるよう費用負担の在り方等について検討が必要

【お客様の利便性向上に資するサービス施設】

■ シャワー施設(プロドライバーの支援)

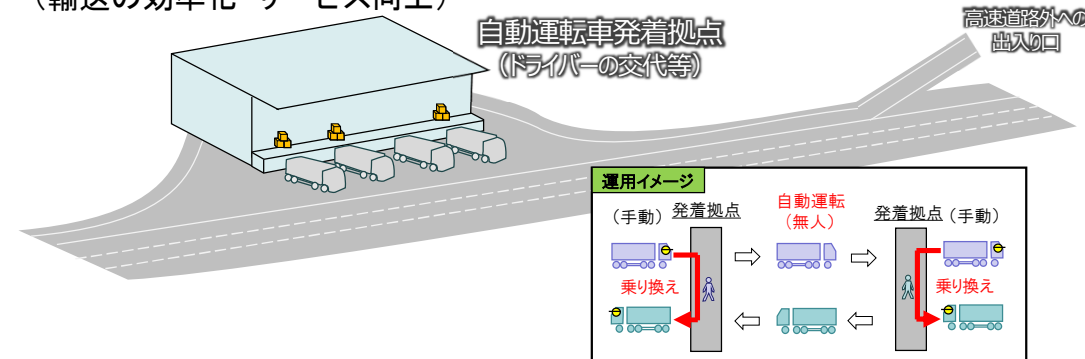


■ ガソリンスタンド



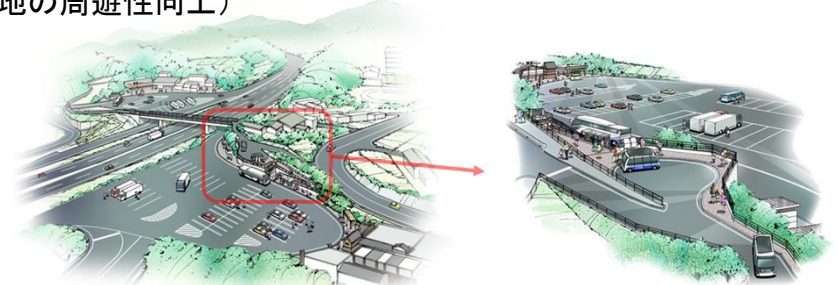
【自動運転車発着拠点・交通結節点のイメージ】

■ 自動運転車発着拠点のイメージ (輸送の効率化・サービス向上)



⇒ 自動運転による幹線輸送の普及などにより、高速道路(休憩施設)の付帯サービス(積替え、発着施設など)としてニーズが高まった場合、それらに関する設置・運営・管理費などの費用負担の在り方等について検討が必要

■ 高速道路と地域交通との交通結節点のイメージパース (観光地の周遊性向上)



⇒ 観光地の周遊性向上に係る高速道路と地域交通の乗換え拠点として交通結節点を整備する際、設置・運営・管理費などの費用負担の在り方等について検討が必要